Hikawa cultural association news

発行
2021.3.19

斐川文化協会だより

No.20
ー特別号ー

編集・発行：斐川文化協会／〒699-0502 出雲市斐川町荘原 2166-1 斐川文化会館内　TEL (0853)73-9180　FAX (0853)73-9189　http://bunkak.stars.ne.jp

令和２年度を終えて

会長　江角俊明

桜の花もまさに開こうとする季節になりました。

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちの生活は大きく一変してしまい、人が集まり、ふれあい、息を合わせることを前提としていた芸術文化活動も極めて大きな影響を受けました。日々の練習や創作活動はもちろん、発表会や展覧会などの事業のあり方もそのかたちを変えざるを得ない状況が続いています。

そんな中ではありますが、「2020斐川文化祭」については、残念ながら「ステージ発表」「しまね映画祭」「お茶席」は見合せ、斐川文化会館及び原鹿の旧豪農屋敷を会場に「展示部門」を中心に開催したところ、2会場合わせて500人余りの来場者がありました。様々な制約はありましたが、会員の創作活動の成果の発表の場として、また市民の皆様に地域の文化に触れてもらう場として、無事に開催できたことは大きな喜びでした。

芸術文化は、私たちに喜びや感動、心のやすらぎをもたらし、人生に潤いを与えてくれるものであると同時に、豊かな感性や創造性を育むものであり、これからの社会を担っていく子ども達にとってもその人間形成に大きな影響を及ぼします。

まだまだ予測が難しい状況が続くことが想定されます。こんな時だからこそ、文化芸術の力を信じ、芸術文化の活動を通して、皆様に生きる喜びや活力をお届けしたいと思います。

2020年度 斐川文化祭

2020年度 斐川文化祭受賞者

賞／部門	会長賞	金賞	銀賞	奨励賞
俳句	三原　白鴉	江角　トモ子	杉原　由利子	船木　淑子　三加茂　紀子　富岡　秋美　保科　明子　池田　美和子　須田　美紀恵 津田　ふじ子　矢野　博子　白根　百合子　須田　明子　郷原　和子　多久田　豊子
短歌	高橋　陽子	岡田　敏幸	田坂　ひでの 吉岡　美代子	岡　壽味子　長崎　雅子　錦織　直子　石原　征二　伊藤　晴子 井上　正　金森　千恵子　樋野　一枝　福間　和子　保科　ひろみ
書道	木幡　愛子	横田　敦	錦織　智子	
菊花	白根　幹雄	勝部　紀行	高橋　茂穂	

コロナ禍だけど…

楽しんでます！

新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでと同じように文化・芸術に親しむことは難しくなりました。春から続いた発表会や展示会の中止や延期、練習会場の封鎖など、先の見えない不安や迷いを抱えながらの日々だったと思います。

新年度を迎えるにあたり、皆さんそれぞれに工夫を凝らし活動を再開されている斐川文化協会加盟団体の皆さんの様子をうかがいました。

一部ではありますが、その元気いっぱいの頼もしい姿、熱い思いを紹介します。

華道 家元池坊 出雲支部 斐川会

昨年、年明けからのコロナ禍は国内だけでなく世界の繋がりは大変密接であること、良きにつけ悪きにつけ世界は一つであることを改めて思いを知る良いきっかけになりました。

目に見えぬウィルスの凶器になんともやり場の無い日々を過ごし、あらゆる活動が制限され自粛を余儀なくされる中で、斐川文化協会事務局の皆様の一方ならぬご尽力で細心の注意を払い文化祭が出来、多くの参加団体の展示があり多くの来場者がおいで下さったことは大変有難いことでありました。文化活動に対する皆様の思いに胸を熱くいたしました。又、私の文化に対する思いを再認識でき良い機会でもありました。文化活動は空腹を鎮めることは出来ませんが、心の充足を育むには大変大きな存在であるとの思いを新にいたしました。「お花を生ける」ことへの尽きぬ思いがあります。お花をみつめ、自分みつめ、己を陶冶すること、なんとも大事なこととの思いです。

「池坊斐川会」も他の活動と同じように自粛、休止をよぎなくされましたが、それぞれ立場で充分な注意を払い活動を再開しています。

出西コミュニティセンターでの「出西わくわく教室」「小学生生け花教室」も9月には再開しました。マスク、手洗い等をし、注意を払いながらも楽しそうにハサミを使いお花を持ち器に立てたり抜いたりしながら、自分の思いをお花に託し、ひたむきにお花を生けるこどもの姿は真剣そのものです。活動が再開できたこともとても嬉しく思いました。

早く日常の生活が戻り、あらゆる活動が再び出来ることを祈るばかりです。

斐川 茶道会

斐川茶道会もご多分に漏れず自粛が続いております。文化活動の脆さに危うさを少なからず感じております。

そんな中でこのささやかな茶道会の活動をどう維持していくか、会員相互のつながりをどう保っていくか役員会で話し合いを重ねました。

結果、感染防止対策を徹底し会員相互の親睦を図る意味で茶会を開くことにしました。それが昨年11月末に豪農屋敷で開いた「紅葉を楽しむ会」でした。会員の皆様から「久々のお茶会に感激しました。」との好評を頂き、何事も起こらずに出来たことにほっと致しました。

又、各流派共いろいろと工夫をしながら活動を続けておられますが、私の流派（裏千家）でも家元によるオンライン授業があり、又、私個人的にはマニュアルに従って自宅でも稽古も始めております。

皆が細心の注意を払って頑張っている状況です。

斐川 書道会

令和3年1月5日（火）

「冬休み子ども書き初め教室」

新年最初の事業として、今年も小学生対象の書き初め教室を開催しました。

9人の子ども達は斐川書道会の会員3名の方に教えてもらいながら、お手本を見つつ丁寧に書き初めを仕上げていました。表情は真剣そのもので、静かに集中して取り組む姿がとても印象的でした。

斐川 短歌会

コロナ情報が流れる中、斐川短歌会は三蜜を避けながら月1回の会を続けています。

現在、会員は11名います。移り行く自然の中で、ふと目に留まった景色や心に残ったことなどを31文字に書き留め、それをもとに自由に話し合うのが私たちの短歌です。

上手下手よりも、互いに思ったことを話し合う中で新しい発見があったり仲間作りとなったり、ひいては認知症予防にも繋がるものと思い、講師の先生の指導のもとに続けています。

このようにして出来た歌は、生きてきたかけがえのない自分の記録となって残ります。

今年は、この「湖笛会斐川支部」が20周年を迎えます。記念誌「築地松」も発刊いたしますが、お目に留まれば幸いです。

短歌に興味のある方のご入会お待ちしています。

女声合唱団 フィオーリ

わたしたちフィオーリは、昨年4月の緊急事態宣言中の2ヶ月間は活動休止していましたが、6月に練習を再開し、感染症対策を取りながら、参加可能なメンバーで活動継続しています。今年は演奏会開催を目指しています。

斐川 日本画協会

コロナ禍で不安な日が続いていますが、安心安全な環境を整えて町内2箇所で日本画教室が開催されています。

一時は町内のコミセンなども使用が出来なくなり、自粛生活の中「家に居て描く時間があってもなかなか気持ちが向かなかった」と話される方も少なくありませんでした。

作品は自宅で一人でも描けますが、人と人との繋がりや交流を持つことは、互いに良い刺激を受け元気な気持ちで作品制作するために必要なことだと、コロナ禍を経験し改めて感じています。

各教室では感染拡大対策がしっかり行われた環境の中で、皆さん楽しそうに自分のペースで学びながら自分らしい絵を描いておられます。出来上がった作品は自宅に飾ったり、公募展に出品されます。

道の駅「湯の川」では会員13人の作品を年3～4回入れ替えをし、常に6作品を展示しています。

日本画というと難しく感じますが、意外に楽しく自分が描きたいものを作品にすることが出来ます。絵を描くことが好きな人、関心がある人は、日本画を描いてみませんか。

斐川日本画協会会員は自分たちの楽しみとして作品を描きつつ、日本画の仲間を募っています。

斐川町 神楽連盟

斐川町内４社中とも、新型コロナウイルス感染拡大により、昨年は地元の秋祭りも含め、ほとんどのイベントが開催中止となり、神楽を皆様の前で披露する機会は無くなってしまいました。

また、練習についてもコロナ対策をしながらが非常に難しいですが、回数を減らし時間も短縮し何とか続けてきました。

今後、イベント等が開催され始めれば、皆様の前でご披露する機会もあると思います。

その時にはぜひご来場いただければと思います。

清吟堂吟友会斐川部会

令和2年は、早々から国内での新型コロナウイルス感染症発生、その予防対応から昨年度最後の予定行事、3月7日(土)「育成吟詠大会」の中止からスタートしました。

その後新年度に入ってからの予定行事も、清吟堂吟友会出雲ブロック吟士権大会、地域行事では各コミセン主催の文化祭、斐川文化祭と、コロナ禍により次々に中止となり、日頃の練習成果の発表機会が失われる事となりました。

幸いに、部会員が日頃練習する環境は、コミセン等での10名足らずの支部（各教室）単位の為、密とならない様配慮し、支部ごとに月2回の練習は継続する事ができました。

コロナウイルスの全国的な終息が見通せない状況から、当面は感染地域・状況のバラツキなどもあり、コロナ感染症防止対応も地域課題の一面といった背景を考慮されていましたが、一転10月以降から清吟堂吟友会としては、三密回避などの対策を施しながらの吟友会行事実施の方向へ舵を切ることとなりました。

これにより、昨年11月28日（土）の出雲ブロックの段位審査会（昇段試験）は、当日の体温測定、消毒、段位ごとに出場時間を予告する時間差出場、発表直前までのマスク着用、発表者前、審査員間のシールド設置などの対策を行い、今年度初の発表の機会とする事が出来ました。続いて本年3月7日（日）には、昨年中止となった「育成吟詠大会」も実施予定であり、対内的には部会員の発表の場を確保できる状況となりました。

一日も早くアフターコロナとなり、文化祭等のオープンな開催を期待している所です。

写真は、三密回避等のコロナ感染防止対策をしつつ実施した段位審査会の模様です。

ひかわ寿昌クラブ連合会

令和２年度は新型コロナウイルス感染症が全国的にまん延し、本会でも感染拡大防止をはかる観点から、連合会・地区・単位クラブのすべてにおいて、計画した事業・活動を取り止め、あるいは規模を縮小しての実施となりました。

連合会の事業では、屋内で多数の参加を得て開催する会合や集会、また飲食をともなう行事はすべて取り止めました。そうした中で理事会を定期的に開催し、本年度の計画事業の実施の可否や内容について協議し慎重に取り組みを進め、また、理事会のほか、年1回発行している広報誌の編集について話し合う広報部会や、さらに本年度は記念誌刊行を進めることになり編集委員会を数回開催しましたが、いずれの会合も、マスクの着用、入退室の際のアルコール消毒、３密の回避、ソーシャルディスタンスの保持、換気の留意などコロナ感染防止策を講じて実施しています。

※その他、出雲市高齢者クラブ連合会、島根県老人クラブ連合会の行事もほとんどが中止・規模縮小となり、出雲市高齢者クラブ連合会会長表彰ならびに島根県老人クラブ連合会会長表彰も、本会の理事会開催にあわせて実施し、黒田会長から受賞者に表彰状と記念品が伝達されました。

島根県老人クラブ連合会会長表彰者への伝達

理事会開催（会場：アクティーひかわ）

フォトクラブひまわり

コロナ禍の中での対応について

コロナ禍での活動状況ですが、毎月1回のコミセンでの定例会はマスク着用、手消毒により従来通り開催できています。作品展示も従来通り実施しています。メンバーでの撮影会は夏場には行いましたが、秋以降は見合わせています。

今後は暖かくなってコロナの状況を見た上で撮影会ができるか検討していきたいと思います。

出雲交響吹奏楽団 -縁-

今年度は新型コロナウイルスの影響で吹奏楽コンクールが中止となったことや、団員の命を守るため、4月～8月の活動を停止しました。

9月からは3月の「縁奏会」に向けて活動を再開しました。練習時の手指消毒、検温、名簿作成、ソーシャルディスタンスの確保、換気など、感染対策を徹底して練習を続けています。早くコロナ禍が収束し、皆様と一緒に文化的活動に参加していければと思います。来年度も出雲交響吹奏楽団~縁~をよろしくお願いします。

※オンライン配信での開催決定！

斐川よさこい祭実行委員会

昨年開催を見送った「第20回斐川だんだんよさこい祭」ですが、今年7月下旬の開催に向けて準備をしてまいります。

斐川よさこい連「神名火」も感染防止対策をしながら練習に励んでいます。皆様のご支援をよろしくお願いします。メンバーも募集しています。

荒神谷ボランティアガイドの会

昨年、ガイド会員は2002年に当会発足以来、初めての経験をしました。

3月頃から新型コロナウイルス感染が全国に広がる中、緊急事態宣言の発出や博物館の休館を受け、観光客は激減、ガイドサービスの一時休止を余儀なくされました。

その後、GOTOトラベルで東京を初め県外の観光客が増える中、このままではせっかく荒神谷を選んで来られた方に申し訳ないという思いから、コロナに罹らないための対策をマニュアル化して、8月1日から1回のガイド対象者を5人以下とし、対応を行うことにしました。

ところが12月からの第3波によって再び休止しました。コロナ対応に追われた1年でしたが、終息後はまた多くの方に喜んでいただくために、今は自主学習に取り組んでいます。

出西相撲甚句会

令和2年10月3日には岩手県雫石町で第12回相撲甚句全国大会が予定されており、それに向けて練習してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行によって全国大会は令和3年2月に、またその秋、10月以降の開催に延期となり、施設への慰問、行事参加なども全てが活動中止や延期になりました。そのため令和2年は一度も舞台に立つことはありませんでした。

全国大会の延期が決定してからは、新型コロナウイルス感染対策として1人1テーブルで間隔を取り、手指消毒とマスクの着用を徹底し、2月と4月5月に1回ずつ練習を中止しましたが、12月20日まで月2回のペースで21回練習しました。

今年の秋には全国大会が開催されることを信じて、1月31日より令和3年の練習を始めています。

NPO法人出雲学研究所

本研究所は、荒神谷博物館と史跡公園の管理運営を担っています。博物館の受付業務、学芸業務、公園管理、イベント事業などを日々行っています。また定例講演会や風土記談義などの自主事業も開催しています。

しかし、コロナ禍にあって昨年春からの事業はほとんど中止しました。4月中旬から5月初旬にかけては博物館の休館もありました。そんな中で、三密を避け、マスク着用などコロナ対策をしっかりと行い、少しずつ事業を再開することにしました。とくに風土記談義は、会員を二つに分け、会場の定員を半分にして11月から再開しました。

本研究所では、何もかも中止にするのではなく、コロナ対策を十分に講じた上で今後の諸事業を行っていくことにしています。

斐川レコード鑑賞クラブ

近年レコードの国内再生産も始まり、またレコードを楽しむ静かなブームが来ています。コロナの時代、じっくり音楽を聴くのも一興。もし自宅に眠っている長年聴いていないレコードがあるなら、一緒に聴いてみませんか？

寿昌大学

本年度は、新型コロナ感染拡大防止の観点から全ての講座が中止となり、毎年、参加されていた受講生の皆さんには大変残念な一年となってしまいました。

今は、活動再開に向けての充電期間と捉え、歴史あるこの教室をさらに盛り上げるために、皆さんがパワーアップして帰ってこられることを期待しています。

まずは、コロナの早期収束を願いながら、元気に参加できるように体調管理に努めていきましょう。

昨年度の講演会の様子

斐川・出雲弁保存会

本会は出雲弁の保存と普及を目的に、今年で活動19年目を迎えます。ところが昨年は、例年行っている「ひかわ出雲弁の集い」や普及事業「なんだらと！出雲弁」を、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

出雲弁を保存するためには、他人とのコミュニケーションが欠かせません。そこには笑いあり、触れあいありです。そこで本会では、コロナ自粛中に出雲弁に関する知識を蓄えてもらおうと出雲弁CDを制作し、このほど会員に配布しました。当会の顧問である藤岡大拙さんによる出雲弁の講演（「出雲弁談義」と「出雲弁の味！」の2本）を収録したものです。

コロナが終わったら、また一緒に会いましょやね！！

斐川フォークダンス連盟

コロナ禍の中、思うような活動が出来ず、昨年は半年の長い休みとなりました。家に閉じこもりがちな毎日ではストレスが溜まってしまいます。感染防止対策を徹底し細心の注意を払いながら9月からフォークダンス、レクダンス、民踊などを工夫しながら行っている状況です。今後の活動を維持し、地域のコミュニティの場として、明るい生活や健康の維持に貢献するのにはどのようにしていくのか今後の大きな課題となりました。

役員会の様子

斐川町民謡協会

斐川町民謡協会会員は25名、出西部会、荘原部会、直江部会、久木部会、伊波野部会、民友部会の6部会の構成で日々活動しており、各部会、週2回～3回の練習稽古を続けています。

昨年前半は、コロナ禍の中思うように稽古練習が出来ず、外部（老人ホーム・施設）への慰問活動も又独自の発表会の開催は2回のみでした。また同年6月には、安来節・関の五本松節・出雲追分各保存会本部より研修会、審査会及び全国大会も全面中止との報告を受け、皆が自粛ムードで終始しました。8月には各保存会斐川支部長並びに各部会長氏に原稿を依頼し、会員向け暑中見舞いのチラシを制作し会員各位に配布しました。年が明け、恒例の斐川町民謡協会総会も唄い始め会も中止しましたが、総会資料の制作に加え各支部長並びに会員有志の皆様の挨拶分を募集し、11名の皆様に協力頂きました。又、コロナ禍の中プレゼントとして抗ウィルスマスク「Z-400Mask」を添えて配布しました。

令和3年度は、審査会がビデオ収録で開催されることとなりました。まだまだ不安はありますが、これを支えに意識をより一層高めてまいります。今年のモットーはやる気、本気、元気です。明けない夜は有りません。必ず克服できるはずです。共に手を携えながら乗り切りましょう。

斐川フォークソング愛好会（スイーツ）

スイーツは、緊急事態宣言後しばらく活動を休止していましたが、昨年6月頃から少しずつ練習を再開し、現在は入場整理券を発行し、2ヶ月に1回、お客様は30名以下で公開練習と言う形でライブを開催しています。

練習も広い場所で密を避けてやっています。島根県でも日々コロナ感染者が出てますが、メンバーそれぞれが自衛してやっております。こんな世の中ですが、少しでも気分転換になれたら思いと活動しておりますので、今後もご理解ご協力を宜しくお願いします。

日本舞踊 西川沢妙 教室

コロナ禍でリモート稽古を導入。先生が画像を送り、生徒さんは巣ごもりしながらお稽古。

今年は皆で集まる回数を減らし、あとは一人づつゆっくり、しっかり稽古しました。

引き着も順番に着てみました！

稽古の合間に帯結び大会なども行いました。

演劇の人と一緒に合同発表
昨年の2月まではこんなことも出来てました。

ひかわ スポーツ 夢クラブ

コロナに負けない体力づくり。

対策をとりながら、しっかり体を動かしましょう。

新規会員募集中！お待ちしています！

貯筋運動の様子

オリジナル ソングを 作る会

今年も曲ができました。「恋心」「この街が好き」等。このコロナ禍でも変わらず発表しました

斐川 陶遊会

書遊会

私たちは、楽しく上達し、プロ入りをめざしております。

新年の行事として陶芸家の方に大皿とか抹茶茶碗を作陶していただき、思いを込めた字を書き、出来上がりを待っております。

斐川文化会館について

斐川文化会館は、昭和49年旧斐川町の中央公民館として建設され、平成23年の市町村合併以降、出雲市の文化施設の一つとして位置づけられました。大小様々な会議室やホールを備える地域で最も大きい集会施設であり、長い間、町の様々な行事や式典の会場として利用され、地域のシンボル的な存在として親しまれています。

しかし、施設の老朽化や現在の基準には適合しない耐震強度、特にホールに於いては、舞台設備の不備やバリアフリー化の遅れなど様々な問題を抱えており、使い易さや安全性に関しては、市民のニーズを満たしていないのも現状です。

平成27年3月「出雲市公共施設のあり方指針」において、斐川文化会館は「使用中止」の方針が示されました。その後令和元年3月の出雲市議会、斐川地域自治協会連合会では老朽化に係る斐川行政センター庁舎整備への対応の中で、斐川文化会館の「廃止・解体」と代替施設としての「多目的棟の整備」の説明があり、それを受け、斐川文化協会の会長、事務局長も委員として参画する『斐川地域自治協会連合会庁舎等整備検討委員会』を中心として、特に「多目的棟のあり方」について担当部局との協議・検討を重ねてきました。

その中では、地域の各種団体それぞれの立場から、ある程度の規模のホール・ステージの必要性についての発言があり、人口・世帯の増加、地域をけん引するダンスや合唱のグループ、県内有数の規模を誇る斐川文化協会の存在など、出雲市全体の文化芸術の発展・振興に大きな可能性を持つ斐川地域においては、集会・防災の機能はもとより、文化活動の拠点としての機能が必要であるとの結論に至りました。

昨年秋には同会でまとめたものを「要望書」として提出し、「斐川地域での利用状況を勘案し今後地元と協議する」との回答も得ています。

市内各施設の老朽化や時代のニーズの変容、市の財政状況や少子高齢化からも新施設の適正規模や内容は考慮しなくてはなりませんが、少なくとも、今までの施設利用者が継続して文化活動を行うことができる一定規模の活動場所及び設備の確保を引き続き働きかけていきます。

お気軽にお問い合わせください。

募集

斐川地域を拠点として活動し、協会の目的に賛同する5名以上の団体、及び個人の方を募集しています。
併せて、加盟団体では一緒に活動する仲間を募集しています。

お問合せ先 斐川文化協会事務局（斐川文化会館内） TEL (0853) 73-9180